

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	アイクルシグ(CML)
診療科名	血液腫瘍内科
診療科責任者名	末永孝生
適応がん種	前治療薬に抵抗性又は不耐容の慢性骨髄性白血病
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	CML-4
登録日・更新日	2018年8月28日
削除日	
出典	アイクルシグ添付文書 Int J Hematol. 2017 ;106:385-397
入力者	伊勢崎竜也

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	アイクルシグ錠	15mg	45mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> IVHポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1日1回	連日

1コースの期間	設定なし
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日) ・ <input type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>開始用量 開始 45mgを1日1回投与 1段階減量 30mgを1日1回投与 2段階減量 15mgを1日1回投与 3段階減量 投与を中止</p> <p>骨髄抑制 好中球絶対数(ANC) < 1000/μL又は血小板数 < 5.0万/μL 45mg投与時の最初の発現: ANC ≥ 1500/μL及び血小板数 ≥ 7.5万/μLに回復するまで本剤を休業し、回復後は45mgで再開する。 45mg投与時の再発ANC ≥ 1500/μL及び血小板数 ≥ 7.5万/μLに回復するまで本剤を休業し、回復後は30mgで再開する。 発現時の用量が30mg: ANC ≥ 1500/μL及び血小板数 ≥ 7.5万/μLに回復するまで本剤を休業し、回復後は15mgで再開する。 発現時の用量が15mg: 本剤を投与中止する。</p> <p>肝機能障害 AST ≥ 80U/L、ALT ≥ 100U/L 発現時の用量が45mg: AST < 80U/L、ALT < 100U/Lに回復するまで本剤を休業し、回復後は30mgで再開する。 発現時の用量が30mg: AST < 80U/L、ALT < 100U/Lに回復するまで本剤を休業し、回復後は15mgで再開する。 発現時の用量が15mg: 本剤を投与中止する。 AST ≥ 80U/L、ALT ≥ 100U/LかつT-Bil > 2.0mg/dLかつALP < 720U/L 本剤を投与中止する。</p> <p>肺炎/リバーゼ及びアミラーゼの増加 無症候性のGrade 3又は4のリバーゼ又はアミラーゼ増加 発現時の用量が45mg: Grade 1以下に回復するまで本剤を休業し、回復後は30mgで再開する。 発現時の用量が30mg: Grade 1以下に回復するまで本剤を休業し、回復後は15mgで再開する。 発現時の用量が15mg: 本剤を投与中止する。</p> <p>Grade 3の肺炎 発現時の用量が45mg: Grade 1以下に回復するまで本剤を休業し、回復後は30mgで再開する。 発現時の用量が30mg: Grade 1以下に回復するまで本剤を休業し、回復後は15mgで再開する。 発現時の用量が15mg: 本剤を投与中止する。</p> <p>Grade 3の肺炎 本剤を投与中止する。</p> <p>その他非血液系の副作用 ・7日間を超えて持続するGrade 2 45mg投与時の最初の発現: Grade 1以下に回復するまで本剤を休業し、回復後は45mgで再開する。 45mg投与時の再発: Grade 1以下に回復するまで本剤を休業し、回復後は30mgで再開する。 発現時の用量が30mg: Grade 1以下に回復するまで本剤を休業し、回復後は15mgで再開する。 発現時の用量が15mg: 本剤を投与中止する。</p> <p>・Grade 3または4 発現時の用量が45mg: Grade 1以下に回復するまで本剤を休業し、回復後は30mgで再開する。 発現時の用量が30mg: Grade 1以下に回復するまで本剤を休業し、回復後は15mgで再開する。 発現時の用量が15mg: 本剤を投与中止する。</p>
前投薬	なし
その他の注意事項	Breakpoint cluster region-Abelson(BCR/ABL)遺伝子変異(T315I等)がある患者に限る。 高齢(65歳以上)の患者、虚血性疾患の既往歴を有する患者に使用する場合は心血管系疾患の危険因子(高血圧、糖尿病、脂質異常症等)を管理するとともに、患者の状態を十分に観察し、胸痛、腹痛、四肢痛、片麻痺、視力低下、息切れ、しびれ等の血管閉塞性事象が疑われる徴候や症状の発現に注意する。開始後3ヵ月間は2週間ごと、その後は1ヵ月ごとにモニタリングや検査を実施する。

記入者	伊勢崎竜也
確認者	竹内正美